

(公社) 栃木県サッカー協会事務局

〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19
 TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330
 URL <http://www.tfa.or.jp/>



contents

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 なでしこリーグカップ県内初開催! 2 なでしこリーグカップ/栃木トヨタカップ第18回県サッカー選手権大会 3 第93回天童杯全日本サッカー選手権大会 4 理事長就任のご挨拶/「いつかはJへ」の夢の実現に向けて 5 第18回栃木県サッカー選手権大会を終えて 6 栃木県知事杯優勝及び栃木トヨタカップ出場権獲得について 7 高校連盟より 8 各大会県予選結果/2013未来をつなぐ北部九州総体に参加して 9 平成25年度全国高等学校総合体育大会 10 選手権大会栃木大会組み合わせ/今年度のクラブチームの活動/「栃東リーグシップ」のとりくみ。目立てきた選手を育成します。」 11 日本クラブユース選手権大会デベロッパカップ2013に出場して 12 HFC. 真向 13 U-14栃木県トレンセン中体連選抜 韓国遠征に参加して | <ul style="list-style-type: none"> 14 第4種委員会 高瀬利明委員長あいさつ/第37回全日本少年サッカー大会栃木県大会 15 第3回北関東U-12サッカー大会/第37回全日本少年サッカー大会/ 16 第37回関東少年サッカー大会/第35回関東少年サッカー大会 17 第1回全館シニア(40歳以上)サッカー大会関東予選会/第12回全館シニア(50歳以上)関東予選会/第88回関東シニアサッカー選手権大会(Over60) 18 第88回関東シニアサッカー選手権大会O-60試合結果/シニア委員会 19 D編リフレッシュ研修会から 20 全日本大学フットサル関東大会 マジカオ興勢初め4強 21 藤FCがアベックV/フットサル委員会に主管移行/本県3チームが奮闘 22 栃木SCが全国ベスト8 23 第37回全日本少年サッカー大会に参加して 24 第88回国民体育大会 関東ブロック大会サッカー競技開催/各団体のスタッフ一覧 25 技術委員会からの報告 26 トップ指導者育成事業 27 平成25年度賛助会員ご芳名/賛助会員募集のお知らせ |
|--|--|



なでしこ関連ゲーム県内初開催!

なでしこリーグカップ

「浦和レッズレディース」対「日テレ・ベレーザ戦」

※写真 平成25年7月6日「なでしこリーグカップ」栃木県グリーンスタジアム

なでしこリーグカップ開催



7月6日、県グリーンスタジアムで「なでしこリーグカップ」予選Bグループ第5節「浦和レッズレディース対日テレ・ベレーザ戦」が開催された。この大会は「なでしこリーグ」の中断期間に行われるカップ戦で、なでしこ関連の試合の県内初開催となった。

試合は、前半5分、浦和がFW後藤三知のゴールで先制。しかし同38分、日テレはCKからMF阪口夢穂がヘディングシュートを決め同点とした。その後は両チームとも一進一退の攻防を続け、後半43分、日テレがFW木龍七瀬のゴールで逆転し、日テレが2-1で勝利した。

浦和には宇都宮市出身のDF坂本理保が所属しており、地元の声援を受けながら凱旋フル出場した。

栃木トヨタカップ 第18回県サッカー選手権大会

栃木トヨタカップ第18回県サッカー選手権大会が、第93回天皇杯の出場権を懸け、1回戦8月4日、準決勝8月11日、決勝8月25日の日程で、県グリーンスタジアムで開催された。

1回戦は、栃木SCユース（第2種代表）が3-1でFC真岡21（第1種代表）に快勝し、準決勝に進んだ。

試合は、栃木SCユースが序盤からスピードと豊富な運動量でFC真岡21を圧倒。前半38分、ゴ

ール正面でMF押山洋介のゴールで先制。5分後にはFW近藤康人がゴールを決め、その後もゲームを支配した。

FC真岡21は、後半ロスタイムにFW高橋正稔がゴールで1点を返したが終始防戦を強いられた。

FW真岡21は、後半ロスタイムにFW高橋正稔がゴールで1点を返したが終始防戦を強いられた。

栃木SCユース

3 (2-0, 1-1) 1

FC真岡21

準決勝は、ヴェルフェたかはら那須（関東リーグ）が6-0の大勝で栃木SCユース（第2種代表）を下し、5年連続の決勝進出を決めた。

試合は堅守から速攻、遅攻など攻撃を組み立てるヴェルフェが前半4分、左コーナーキックからMF吉田雄飛が頭で合わせ先制すると、その後もFW林慶之の2得点の活躍などでゴールを重ねた。栃木SCは前半には前線でいい動きを見せたもののおよばなかった。

ヴェルフェたかはら那須

6 (1-0, 5-0) 0

栃木SCユース

決勝は4年連続となる対戦で、栃木ウーヴァFC（JFL）が3-0でヴェルフェたかはら那須（関東リーグ1部）を下し、2年ぶり5度目の優勝を飾った。

試合は前半0-0で折り返し、後半に入り栃木ウーヴァはセットプレーからDF高桜健太の左クロスの折り返しをFW斎藤翔太がボレーで決めて先制。11分にはFW若林学が追加点を挙げ、17分にはMF平泉衝が3点目を奪って突き放した。ヴェルフェは幾度か見せ場をつくったが、後半は力の差を見せつけられた。

優勝した栃木ウーヴァは、8月31日に開幕する第93回天皇杯全日本選手権大会1回戦に本県代表

として出場。県グリーンスタジアムで東京国際大（埼玉）と対戦。

栃木ウーヴァFC

3 (0-0、3-0) 0

ヴェルフェたかはら那須



9月7日は各地で2回戦が開催された。2回戦から登場したJ2の栃木SCは県グリーンスタジアムで同じJ2のアビスパ福岡と対戦、5-1と大勝し2年ぶりの3回戦進出を決めた。

栃木SCは前半1分に福岡に先制を許したが、同10分にMF菊岡拓朗のFKで同点に追い付き、後半10分にMF湯沢洋介がゴールを決め逆転。同29分にはFW近藤祐介が追加点を奪いリードを広げ、後半ロスタイムにはFWサビアと菊岡が立て続けにゴールを決め相手を突き放した。

栃木SCの3回戦は10月16日、ニッパツ三ツ沢球技場でJ1の横浜F・マリノスと対戦する。

第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会

8月31日に開幕した「第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会」は31日に開幕し、各地で1回戦を行った。本県代表で2年ぶり5度目の出場となった栃木ウーヴァFC（JFL）は、県グリーンスタジアムで埼玉県代表の東京国際大学と対戦し、2-1のスコアで勝利し、第91回大会以来となる2回戦進出を決めた。

栃木ウーヴァは前半6分にMF市川稔のシュートで先制。後半7分にはMF足立高俊のボレーシュートで追加点を挙げた。東京国際大学に1点を返されたが、ゴール前の体を張った守りで逃げ切り、3年前に1回戦で敗れた相手に雪辱を果たした。

栃木ウーヴァは2回戦（9月11日）、浦和駒場スタジアムでJ1の浦和レッズと対戦し、1-2で惜敗し3回戦出場はならなかった。

栃木ウーヴァFC

2 (1-0、1-1) 1

東京国際大学（埼玉）

栃木SC（J2）

5 (1-1、4-0) 1

福岡（J2）



理事長就任のご挨拶

社会人連盟 鈴木 篤

この度、鈴木勇前理事長の後任として、社会人連盟の理事長に就任いたしました鈴木篤です。理事長を拝命し、重責に身の引き締まる思いですが、就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

皆様には日頃より当連盟の活動に対しご理解とご協力を頂き心よりお礼申し上げます。

私は平成17年度に理事となり1部リーグ運営委員長、連盟総務委員長を経て、このたび理事長に就任致しました。個人としては選手・コーチ・運営・監督として一チームに関わってきました。これらの経験を踏まえて皆様とより良いサッカー活動ができるように職務に励んでいきたいと思えます。

当連盟は1期2年の任期で役員の変更を行い、現在39名で構成され活動を行っています。

特に今回の改選では大幅に若返りを果たし新しいチームの誕生とっております。『チーム社会人（1種）の取り組み』をスローガンに経験のある役員と新役員とを融合し、まとまりのあるチームを目指し、活動をスタート致しました。

当連盟の活動は大会運営、登録関連、審判活動、技術強化、マッチコミッショナー派遣、各協会・連盟との連携と多岐にわたっております。

近年登録チーム数の減少により当連盟の活動も大幅な見直しを求められており、選手・チームの登録を増やすこと＝「サッカーファミリーの拡大」は急務であると考えております。ただし、最も大切なことは登録されている選手、チームの皆様のサッカー活動を、またはこれから始めようとしている皆様のサポートをプレイヤーズファーストとなるべく行うことと考えております。

さて、ここ数年を掛けて行ってきました2部リーグの改変も折り返しのシーズンとなり、今季は20チーム総当たりと長丁場のリーグ戦を繰り返しています。関係している選手・チーム・運営協力者の皆様に改めて感謝いたします。来季からは上位・下位リーグに編成を変えリーグのレベルアップを目指したいと考えております。

また3部決勝大会も今年度は参加24チームから3チームが昇格と狭き門となり、より一層チーム力が必要とされる大会となります。

県リーグの底上げ・魅力あるリーグ作りを通して、長らく昇格チームが出ていない関東リーグへの扉を開くべく活動を行ってまいります。

最後に社会人連盟を支えてくださった先輩方のご尽力にお礼を申し上げると共に、これまで培ってきました社会人連盟の伝統・理念を生かし、新たな『チーム社会人』となれるように役員一丸となって取り組んでまいります。

皆様の日頃の成果を発揮していただけるよう活動を行ってまいりますので、改めてご理解、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

“いつかはJへ”の夢の実現に向けて

栃木ウーヴァフットボールクラブ



日頃から、栃木県サッカー協会ははじめ皆様には当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨シーズンは、奇跡的にJFLに残留することが出来ました。皆様には大変ご心配をお掛けしました。

今シーズンは、新たに多田監督を迎えると共に、コーチ陣の増強をして開幕しました。

しかし、序盤、中盤と苦戦を強いられ辛く長いトンネルは終盤戦に入りやっと抜け出たかのように、リーグ2連勝と天皇杯本大会出場、そして1回戦を突破してJ1の浦和レッズとの対戦の機会

を得るなど、チームは徐々に上向いてきました。

そんな中、来年からスタートする「J3」の新設は、当クラブの夢である“いつかはJへ”の夢の舞台へ近づく第一歩であり、栃木県サッカー協会や栃木市など関係各位のご支援により、Jリーグ準加盟の申請ができ、現在審議中であります。

『さらなるステージへの挑戦』は、県南地域の子どもたちに夢を与えることができます。当クラブから巣立った選手がJ1・J2に羽ばたき、さらには世界へ羽ばたける夢づくりの一つとして、これからJを目指す選手の受け皿として、また、コンパクトな地域密着型の『おらがクラブ』として地域の人材育成と地域活性化を目指します。

JFLの中で練習環境、財政力、運営組織が一番厳しく、課題の山でいっぱいですが、課題や苦難が大きければ大きいほどその達成感も大きくなります。地域に根差したクラブ作りには、多くの時間と行政をはじめ大勢の皆さんのご理解やご支援が必須であります。多くのことを外に学び、内に団結して日々精進しているところです。

『おらがクラブ』は、朗らかで、仲良く、与えられた役目を喜んでする人々がこぞって集り、一人の人が2役も3役もこなす集団でありたいと思っています。

足元と未来の両方を見据えて、地域の皆さん、スポンサー、ボランティア、サポーター、チーム、フロント、が一体となって、おらが夢：“いつかはJへ”の実現を目指します。

今後とも応援宜しくお願い致します。

第18回栃木県サッカー選手権大会を終えて

ヴェルフェたかはら那須
山本 武則

まず栃木県サッカー選手権大会の際に、大会運営の皆様方、審判をして下さった審判員の方々、会場に足を運んで応援していただいた皆様方に厚く御礼を申し上げます。

今シーズンチームが、掲げた目標の一つである天皇杯出場。昨年3年振り2度目の天皇杯出場を



はたすことができ、2年連続での天皇杯出場を目指して臨んだ今大会。

8月11日の準決勝、公式記録は42度と前日猛暑の中関東リーグを戦い臨んだ栃木SCユース戦。この日も猛暑で非常に体力的に厳しい試合であったがチーム全員で戦い抜き6-0と勝利し5年連続での決勝戦進出を決めることができた。

相手は県内のライバルで同じアマチュアチームの栃木ウーヴァFC。4年連続での対戦。2年連続の天皇杯出場を目指した決勝戦でしたが、ウーヴァにボールを支配され、自分達がしてきたサッカーができずに0-3の完敗。2年連続の天皇杯出場はなりませんでした。今年の実験挑戦は終わってしまいましたが、今回の敗戦を糧にし、来年栃木県の代表として天皇杯に出場できるように、チームとしてさらに成長していけたらと思います。県内アマチュアのライバルチームとして、互いに意識し成長してきた、栃木ウーヴァの存在に感謝し、これからも互いに切磋琢磨し成長し続けていければと思います。

また、前半戦を振り返ってみて、7月に関東予選を勝ち抜き、10月に長崎県でおこなわれる全国社会人サッカー大会に3年振りに出場することが決まりました。一つでも多く勝ち抜けるようにチーム一丸となって戦ってきます。

他にも、ホームゲーム戦後のサッカー教室の開催や、地域のイベント協力、など、積極的に地域の皆さんと交流をはかり少しづつではありますが、地域に根づいたクラブになりつつあります。今後も積極的に地域のイベントに参加し継続していきたいです。

JFL昇格という大きな目標を成し遂げられるように、地域に根ざし、みなさまに応援していただけるチームになれるように役員・選手一丸となって邁進してまいりますので今後ともヴェルフェたかはら那須を何卒宜しくお願いします。



栃木県知事杯優勝および 栃木トヨタカップ出場権獲得について

フットボールクラブ真岡21
監督 南木 健二

この度、我々FC真岡21は平成25年度栃木県知事杯を9年ぶりに優勝し、更には栃木トヨタカップ代表決定戦においても、作新大学を5-2で撃破し、1種代表の出場権を獲得しました。

これだけの大きな成果を残せたのは選手達の頑張りは勿論ですが、練習会場や試合会場を提供して下さる真岡市や、チーム活動に様々なサポートを下さる社会人サッカー連盟の皆様、そしてチームを応援し多大なご支援をくださるスポンサー等、沢山の方々のご協力やご支援があったからこそです。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

さて我々FC真岡21は、2004年に1部リーグ昇格を果たし、初年度には知事杯優勝や、県1部リーグで3位となり関東社会人大会出場と大きな成果を残しました(*関東社会人が栃木開催だったため)。しかしそれ以降チームの成績は低迷し、主だったタイトル獲得もなく、2部降格の危機に瀕する

シーズンが何年もありました。私は今年でチーム在籍8年目になりますが、チームとして非常に苦しい時期を選手として4年、コーチとして2年、昨年より選手兼監督となり2シーズン目を迎えております。そんな苦しい時期を通じて、社会人チームが秩序あるチーム運営を行い、目標に向けてチームをまとめることの難しさ、そして大切さを学びました。

これまでの経験を踏まえ、私は監督としてチーム運営を行うにあたり、強い信念のもと以下のような点を徹底しております。

- ①チームのスタイルを明確にし、チーム全員で共有する。またそのスタイル実現のために練習プランを計画し、実行、結果の検証、計画の修正といったサイクルを実行すること。
- ②チーム内のルールを厳格に決定し、例外を極力認めないこと。
- ③チーム運営をスタッフ任せにせず、継続的かつ安定したチーム運営のために、選手1人1人に役割と責任をもたせること。
- ④少しぐらいサッカーが上手くても、社会人として価値ある人間でなければ意味がないので、社会人としてのモラルを徹底させること。

これだけを見ると、選手からすれば非常に堅苦しい面倒くさいチームだと思われるかもしれませんが。しかしチームとして様々な判断基準を明確にしておかなければ、ある特定の選手のワンマンになってしまったり、監督の思いつきで戦いかたの方向性が急に変わったりと、実際にプレーする選手達が混乱したり、不平・不満を持つ原因となってしまいます。サッカーは野球やバスケットと違い、ミスや偶然性の高いスポーツです。そのため試合の勝敗は、監督の指示よりも試合中の選手個人の判断力に大きく左右されます。そのため監督はチームを勝利に導くために、試合中に選手達が自然と適正な判断を繰り返し行える準備をしなければなりません。その準備を進めるうえで、戦術の共通理解やチームの方向性は勿論、約束事やチームの姿勢・考え方を明確にすることは極めて

重要であると私は考えます。

さて今大会を振り返ると、やはり知事杯の決勝戦がベストゲームだったと思います。決勝の相手の足利御厨には、過去リーグ戦を含めてほとんど勝てておらず、チームの中には苦手意識が蔓延しておりました。そのせいかこの試合も、立ち上がりから圧倒的に押し込まれてしまい、決定的なピンチを招いてしまいました。相手シュートがバーに弾かれる好運にも恵まれ徐々にペースを取り戻すと、サイドを起点にボールを保持する時間が増えてきました。ラインを引いてしっかりブロックを形成する相手DFラインをなかなか突破できず攻めあぐねていた前半15分頃、中盤での相手の一瞬の隙を見逃さず40m近いロングシュートで先制に成功すると、前半終了間際と後半開始直後にミドルシュートで得点を重ね3-0と大きくリードを広げました。その後は相手の猛攻を何とか1点に抑え込み、9年ぶりのタイトルを獲得することができました。

この試合、選手達は非常に落ち着いており、序盤の相手の猛攻にも浮足立つことなく、自分達の攻撃が上手くいかなくても焦ることもなく、淡々と相手の隙を窺っていました。以前は上手く試合が運べなくなると自滅する傾向にあったのですが、チーム全体でしっかりと共通理解をもち、自分達のサッカーを迷いなく自信を持って戦えるようになったのは、昨年より取り組んできたことが実を結んできたからだと思います。

これからも栃木ウーヴァ、ヴェルフェたかはらに続き、関東リーグ昇格を果たし栃木を代表する社会人サッカーチームを目指すとともに、他の模範となり周囲から愛されるチーム作りを行っていきますので、これからもご支援、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



1. 高校連盟より

高体連サッカー専門部委員長

小田林 宏至



現在、高校連盟は、男子63校、女子12校が県高体連に加盟し、各大会に参加しています。

大会は、県新人大会、県総体兼関東予選、全国総体予選、全国高校サッカー選手権栃木大会に加え、ユースリーグを年間通じて行っています。

ユースリーグは年度を重ねるごとに整理され、現在1～3部制で実施しており、各グループ2回総当たりで試合数も確保されているところです。また、選手たちにより多くの試合出場の機会を与えるため、1校から複数チームの参加も認めており、年々盛り上がりを見せてきています。

今年度は、佐野日本大学高校が関東プリンスリーグ2部に参戦し、関東1部、プレミアリーグ昇格を目指し、健闘しています。

県内大会に目を向けてみると、県総体兼関東大会予選が4月から5月にかけて行われました。男子は、矢板中央高校と真岡高校の決勝戦となり、矢板中央高校が1対0で勝利し、2年連続の優勝を果たし、準優勝の真岡高校とともに、山梨県で開催された第56回関東高校サッカー大会に出場しました。

女子は、決勝戦で文星女子高校が大田原女子高校に勝ち、優勝し、第2回関東高校女子サッカー大会に出場しました。

6月に行われた全国高校総体予選においては、真岡高校と佐野日大高校の決勝戦となりました。接戦でしたが、延長線でも決着がつかず、0対0からPK方式で真岡高校が勝利し、インターハイ出場を決めました。

真岡高校は福岡県で行われた本大会において、強豪校を相手に、接戦をものにして準決勝まで勝ち進みました。準決勝では千葉県の流れ経済大柏高校に敗れましたが、第3位の成績をおさめました。

また、10月に開催される全国高校サッカー選手

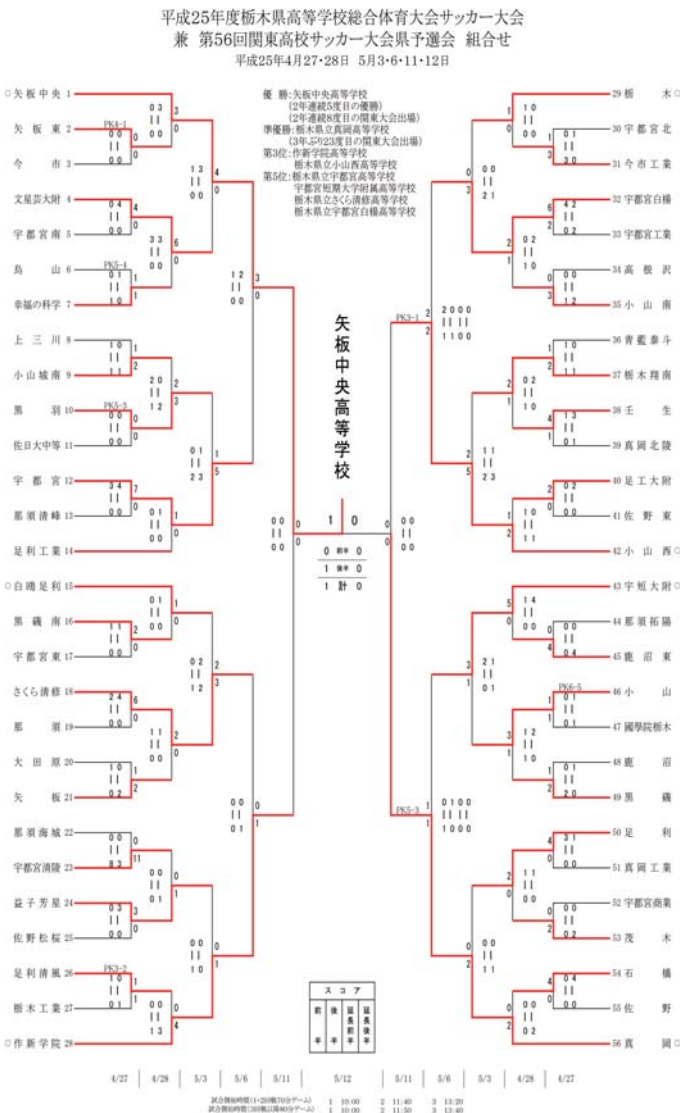
権栃木大会の出場校が、推薦出場の8校と、8月に行われた1次予選を勝ち抜いた16校の計24校が出揃いました。

各校とも各大会に向けて日々練習に励んでいるところです。県内で切磋琢磨し、上位大会で活躍できるよう、栃木県の高校のレベルアップを図り、日本を代表するような選手が育つようにしていきたいと考えています。

2. 各大会県予選結果

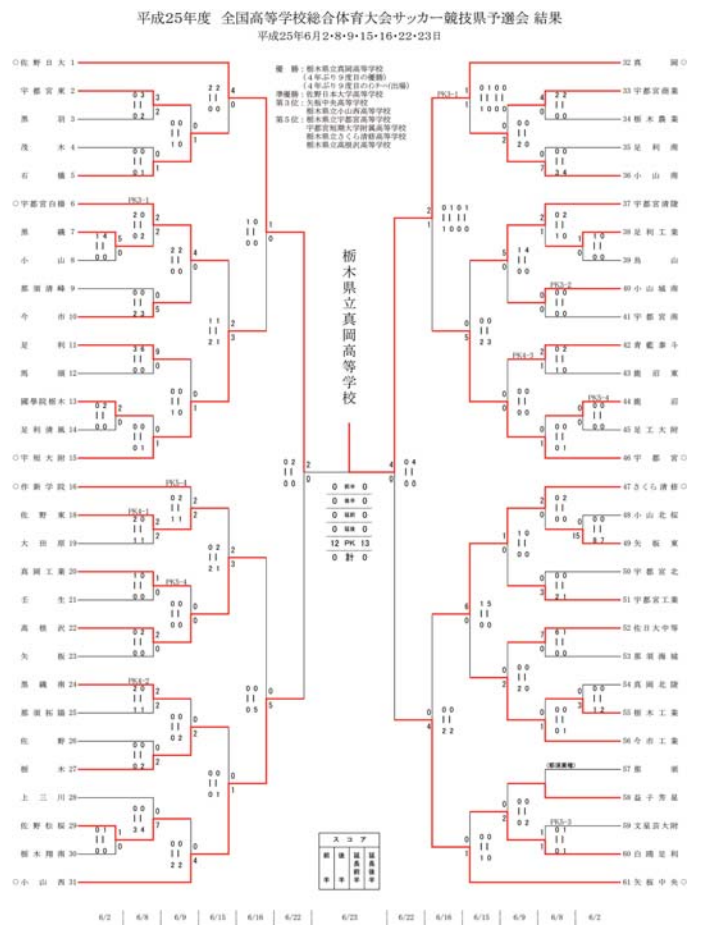
① 関東大会県予選会

矢板中央高校(2年連続8度目) 関東大会出場
真岡高校(3年ぶり23度目) 関東大会出場



② インターハイ県予選会

真岡高校(4年ぶり9度目)インターハイ出場



2013未来をつなぐ 北部九州総体に参加して

真岡高等学校サッカー部
 監督 川上栄二

去る6月23日、全国高校総体栃木県予選決勝勝戦において、PK戦の末に佐野日大高校から勝利することができ、4年ぶり9度目のインターハイ出場を決めることができました。この時点で、相手も分からないまま最低目標をベスト8に設定しました。その理由は、私が真岡に異動した最初の保護者会で「日本一」を標榜していたからです。目標が定まらなると、行動指針が作れず、行動指針がなければディンプリンも日々のトレーニングも成立しません。結果論で言えば、上出来すぎるものでした。もちろん私一人の力ではなく、多くの方々の献身的なサポートがあったからこそ成し得たものでした。

福岡入りしたのは初戦3日前の7月29日。宿舎到

着し、まず行ったことはリフレッシュ（海水浴）。勝負は2日目のコンディションづくりと考えていました。早朝より海辺でのランニング。午後のチーム練習。この日は暑熱環境への馴化とその中での身体的な負荷を高めること、そして疲労をすぐ取る生活習慣の確立。練習後は即スーパー銭湯に移動してゆったりと過ごす（この生活が最終日まで続く）。

8月1日の初戦から8月6日までの試合期間における過ごし方は非常にシンプルなもので、遊びも何もない生活が続きました。試合→銭湯→ミーティング→次の日の準備の繰り返し。コーチングスタッフも試合終了後、自チームの試合分析、次戦チームの試合分析を2?3時間かけて行い、選手への情報提供の内容の精選と次の試合の先発選手の選考を行いました。トレーナーを中心に選手のコンディションの情報共有を徹底しました。今年の真岡の強みは、11人ではなくサブ選手も含め多くの選手をプラスして闘うところにあります。現にこの総体においても17名のエントリーのうち16名が出場しています。そして、毎試合先発メンバーが異なっことは特筆できると思えます。選手には、たくさんの可能性があることを感じることが出来ました。

準々決勝の滝川第二、準決勝の流通経済大柏との対戦は多くのものを得ることができました。個人戦術眼の高さ、テクニックの高さ、その試合の勝負に対する強い意志。これらについては高校生の域を超えており、高校だけの育成強化では身に付かないと感じることができました。しかし、県内でも適切な育成環境ができれば追いつくことができるし、これらのチームや個人を十分超えることができるとも確信することができました。

栃木から遠い福岡の地で過ごした10日間は、選手にとっても私たちスタッフにとってもかけがえの時間となりました。今後の栃木の育成像をあらためて感じることでできる大会となりました。今大会を経験した真岡の選手たちが後々の栃木県を支える人材に成長していくことを強く願って、雑駁ではあるが報告とさせていただきます。



2013未来をつなぐ北部九州総体 平成25年度全国高等学校総合体育大会

「結果」

- 優勝：市船橋（千葉）
- 準優勝：流通経大柏（千葉）
- 第3位：正智深谷（埼玉）
- 第3位：真岡（栃木）

③選手権大会一次予選会

平成25年度 第92回 全国高校サッカー選手権大会栃木大会一次予選会
平成25年8月5・6日

A グリーンサブ		B 鹿沼自然の森		C 栃木30年連続(準)国		D 宇都宮工業高校		E 壬生高校	
F 青木サッカー場		G 日光市丸山公園		H 宇都宮高校		I 矢板東高校			
試合時間：① 10:00 ② 11:40 ③ 13:20									
宇都宮清陵 1	0 3	宇都宮清陵	0 0	27 黒磯南	0 0	0 0	0 0	28 白鷺足利	0 0
佐野東 2	1 1	宇都宮清陵	0 0	28 白鷺足利	0 0	0 0	0 0	29 小山城南	0 0
茂木 3	1 0	宇都宮清陵	0 0	29 小山城南	0 0	0 0	0 0	30 足利	0 0
宇都宮白鳩 4	0 0	宇都宮清陵	0 0	30 足利	0 0	0 0	0 0	31 宇都宮北	0 0
國學院栃木 5	2 6	宇都宮清陵	0 0	31 宇都宮北	0 0	0 0	0 0	32 矢板東	0 0
黒羽 6	0 0	宇都宮清陵	0 0	32 矢板東	0 0	0 0	0 0	33 小山南	0 0
作新学院 7	1 2	宇都宮清陵	0 0	33 小山南	0 0	0 0	0 0	34 佐田中等	0 0
那須清峰 8	0 0	宇都宮清陵	0 0	34 佐田中等	0 0	0 0	0 0	35 栃木工業	0 0
日光明峰 9	0 0	宇都宮清陵	0 0	35 栃木工業	0 0	0 0	0 0	36 那須拓陽	0 0
宇都宮南 10	0 0	宇都宮清陵	0 0	36 那須拓陽	0 0	0 0	0 0	37 足利工業	0 0
幸福の科学 11	0 0	宇都宮清陵	0 0	37 足利工業	0 0	0 0	0 0	38 小山北極	0 0
佐野 12	2 5	宇都宮清陵	0 0	38 小山北極	0 0	0 0	0 0	39 足工大附	0 0
大田原 13	0 0	宇都宮清陵	0 0	39 足工大附	0 0	0 0	0 0	40 鹿沼	0 0
栃木翔南 14	0 0	宇都宮清陵	0 0	40 鹿沼	0 0	0 0	0 0	41 矢板	0 0
宇都宮工業 15	2 1	宇都宮清陵	0 0	41 矢板	0 0	0 0	0 0	42 真岡北陵	0 0
宇都宮商業 16	1 0	宇都宮清陵	0 0	42 真岡北陵	0 0	0 0	0 0	43 栃木農業	0 0
壬生 17	1 0	宇都宮清陵	0 0	43 栃木農業	0 0	0 0	0 0	44 足利南	0 0
青藍泰斗 18	1 1	宇都宮清陵	0 0	44 足利南	0 0	0 0	0 0	45 真岡工業	0 0
今市工業 19	1 1	宇都宮清陵	0 0	45 真岡工業	0 0	0 0	0 0	46 鳥山	0 0
小山 20	0 1	宇都宮清陵	0 0	46 鳥山	0 0	0 0	0 0	47 佐野松坂	0 0
黒磯 21	0 0	宇都宮清陵	0 0	47 佐野松坂	0 0	0 0	0 0	48 鹿沼東	0 0
益子芳屋 22	0 0	宇都宮清陵	0 0	48 鹿沼東	0 0	0 0	0 0	49 石橋	0 0
文星芸大附 23	1 2	宇都宮清陵	0 0	49 石橋	0 0	0 0	0 0	50 今市	0 0
足利清風 24	6 3	宇都宮清陵	0 0	50 今市	0 0	0 0	0 0	51 宇都宮東	0 0
馬頭 25	0 0	宇都宮清陵	0 0	51 宇都宮東	0 0	0 0	0 0	52 栃木	0 0
那須 26	0 0	宇都宮清陵	0 0	52 栃木	0 0	0 0	0 0		

スコア		
前	後	延長後半
半	半	半

選手権大会栃木大会出場校 24 チーム決定！

(インターハイベスト8＋一次予選会通過16チーム)

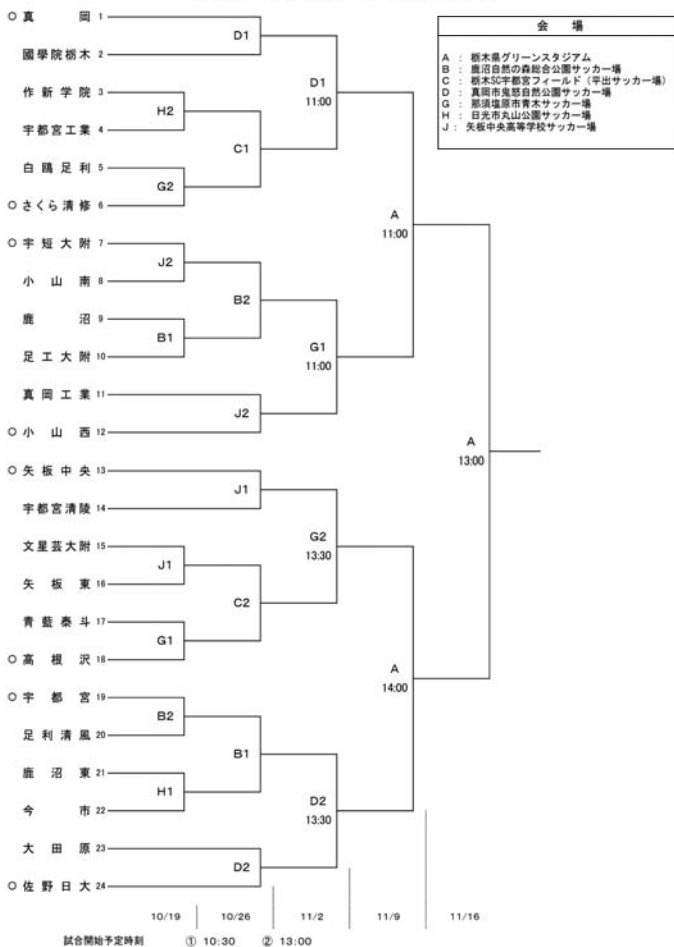
- ・推薦出場8チーム
(インターハイ県予選ベスト8)
 - ・優勝：真岡
 - ・準優勝：佐野日大
 - ・第3位：矢板中央、小山西
 - ・第5位：宇都宮、宇短大附、さくら清修、高根沢

- ・一次予選通過16チーム
宇都宮清陵、作新学院、鹿沼東、宇都宮工業、青藍泰斗、矢板東、國學院栃木、足工大附、小山南、文星芸大附、足利清風、大田原、白鷗足利、鹿沼、真岡工業、今市

3. 選手権大会栃木大会組み合わせ

平成25年度 第92回 全国高等学校サッカー選手権大会 栃木大会 組合せ

平成25年10月19・26日 11月2・9・16日



今年度のクラブチームの活動

クラブユース連盟 理事長 根岸誠一

今年度の登録チーム数は、U-18が1チーム、U-15が22チーム（新規3チーム）です。リーグ戦が重要視され、関東リーグ2部にヴェルディ小山・県リーグが1部・2部に分かれ、1部では、足利ユナイテッドが優勝し高円宮杯関東大会の出場権・来年度の関東リーグ2部の入れ替え戦の出場権が与えられました。日本クラブユース選手権大会県予選では、FCアネーロ宇都宮が優勝し、関東大会も2回戦を勝ち進み、北海道帯広で行われたデベロップカップに出場しました。また、U-13リーグが5月～12月の長期で行われ、高円宮杯県予選が9月～トーナメント戦で行われます。その他、全日本フットサル大会県予選・ラストゴール杯が予定されています。ホームページも充実されてきましたので、ぜひ、クラブチームの試合を見に来て頂きたいと思っております。



『将来リーダーシップのとれる、自立できた選手を育成します。』

Fantasia栃木
代表 山崎亜輝緒



Fantasia栃木は、サッカークラブ&学習塾を併設したチームです。2013年（初年度）は、14名の中学1年生が加盟しています。週2日は学習塾として活動し、週4日はサッカーを楽しんでいます。

クラブでは、中学生時代の3年間を高校や大学への通過点と考えています。サッカーでは、チームと

しての完成度よりも、個人技術を高め、楽しみながら「上手になりたい」選手を大切に育成しています。

さらには将来、高校・大学、プロで活躍できる選手を育てることに重点を置いています。学業では、「希望する高校」に合格できる力を身につけられるように、専用教室を開設し、週2日学習に取り組んでいます。学校でのテスト順位では、全体の5分の2以内（平均よりも上の成績）に入ることを目標としています。授業日以外にも、テスト対策や、全体の5分の2以内に入るための補習授業も実施しています。

『Fantasista栃木の3つの指針』

○個人技術の質を追求

Fantasistaは、「個人技術」の質を追求しています。個人技術を身につけなければ、将来的に選手は成長できません。身体が大きくても、速く走れても、キック力やパワーがあっても、最終的に技術がなければ、その選手は必ず行き詰ります。

最終的に技術がなければ、その選手は必ず行き詰ります。

3年後、5年後、自由自在に、華麗に、圧倒的な技術を持った「サッカーがうまい選手」を育てます。

○サッカーと勉強の両立

Fantasistaは、「サッカー」と「勉強」を指導し、両立を実践します。「サッカーをがんばる」ことは、勉強ができないという「いいわけ」にはなりません。「サッカーだけやっていたらいい」では社会に巣立っていきません。優れたサッカー選手の条件は、自立した選手です。自立できた選手は、自分で判断し、技術を生かしてプレーすることができます。サッカーだけやってきた選手は、なかなか自立することができず、やはり行き詰ります。高校、そして大学につながる学力は、中学3年間の基礎が、とても大切です。

○高校サッカーとの交流

3年後の進路にむけて、高校との交流に力を入

れています。サッカー強豪校、私立高校だけでなく、県立高校や進学校などと、試合や練習などを通して交流していきます。また、サッカーだけでなく、学業でも「希望する高校」に合格できる力を身につけられるように、学力向上を図り、進路指導にも力を入れています。

日本クラブユース選手権大会 デベロップカップ2013に出場して

FCアネーロ宇都宮・U-15

代表 根岸 誠一



栃木県大会を優勝し、関東大会では、1回戦 FOUR WINS FC（茨城）に、3-2で勝利し2回戦 VIVAIO船橋（千葉）では、前半ルーズボールに味方同士がぶつかり、小椋ランディが目の上を切り出血・丸山宜利は出血しなかったが動けなく、救急車を呼び試合も40分近く中断しました。試合は、0-0 PK 4-3で勝利しましたが、小椋ランディは、CT検査は異常なかったものの6針を縫い、丸山宜利が入院することになりました。3回戦では、鹿島アントラーズ（茨城）に完敗しましたが、デベロップカップの出場権を獲得できました。

8月18日～北海道帯広で、北海道①東北①関東③北信越②東海②関西②中国②四国①九州② 16チームを4ブロックに分け、予選リーグが行われました。1試合目は、ロアッソ熊本戦。相手は、4-3-3のシステムでスリートップとトップ下2枚の流動的な動きでゴールに直結するパスを多用し、人数をかけての攻撃・守備では、前線からボールに対し3枚でプレスを、1試合通して徹底して

きました。試合は、真下瑞都の折り返しを柿沼利企が押し込み先制し、GK内田洋彰を中心に丸山宜利が体を張って守備をするも、1-2で逆転負け。2試合目は、フレスカ神戸戦。相手は、4-4-2のシステムで2トップと両サイドハーフが、ドリブルで積極的にゴールに向かい・守備では、GKが指示・飛出し・セービングとチームの要…柴山敬吾・篠崎克貴がチャンスは作るものの試合中のPKも含め全て止められ綱川洋輔の1点のみ・守備では、片倉誠也を中心にドリブルを何度も止めるも、4失点し敗退。3試合目は、FC CED AC戦。相手は、4-4-2のシステムながら、0トップのような中盤に人数をかけ、タッチ数を少なくして味方を追い越しゴール前に人数をかける攻撃・守備では、センタースタック2枚が体を張ってボールを跳ね返し…加藤遼が前線でボールをキープするも得点チャンスが少なく、守備では、南雲亮が好セーブをするも、マークが付ききれず、0-9の完敗。予選リーグ全敗で大会を終えました。

デベロップカップ前に、キャプテンの長谷部玲司が試合中に膝を痛め手術をし大会に帯同できませんでした。チームとして、万全の状態ではなかったことが残念でしたが、関東のチーム以外と真剣勝負ができたこと・関東のチームにはないサッカーを体験できたこと。スタッフ・選手共に今後のサッカーに大きな影響を肌で感じた大会でした。



ソククラブという選択肢を提供する事でスポーツの指導を通じて地域における青少年の健全な育成を図ると共にサッカーを地域に広めスポーツの発展とスポーツ振興に寄与する事を目的として、日頃から地域のスポーツクラブへのご理解、多くのご支援、ご協力を賜り、2004年にHFCサッカースクール、2007年に第4種HFC.ZERO真岡、そして本年度2013年には真岡で初となる第3種のクラブチームHFC.真岡を立ち上げ、クラブユース連盟の承認を得て、登録活動をしています。

ジュニアユースでの活動理念はサッカーを通じた人間形成、生活面、勉強の両立と思いやり感謝の気持ちを持った選手の育成を目指しています。

指導理念は自分自身で判断をしてプレー出来る選手の育成に努め、選手達の持っている個性、独創的かつ創造力あふれるプレーでやっけて楽しい観ていて楽しいサッカーを目指すと共にサッカーの本質でもある「ゴールを目指す」「ボールを奪う」「ゴールを守る」事に対して積極的にチャレンジをさせ技術の質を向上させるためにも指導者同士で日々勉強しコミュニケーションを取りながら指導の質も向上させ、選手全員が関われるサッカーを目指しています。

HFC.真岡では現在中学2年生3名、中学1年生11名で活動をしており、週4回のトレーニング、週末は大会、リーグ戦の参加、練習試合等も他チームのチーム関係者の皆様に声をかけて頂きグラウンドの提供など大変感謝をしています。只、まだまだ真岡ではクラブチームが浸透していないのと、サッカーが出来る環境が少ないのが現状です。スポーツの町真岡、強い真岡を築き上げて行くためにもサッカーを通じてこれからもしっかりと育成と発信をしていきたいと思ひます。これからも関



HFC.真岡

HFC.真岡
代表 小関 武史

これまで少年団や学校における部活動が主であったが、地域スポーツクラブという時代の流れの中で、子供達に学校の部活動だけでなく地域のスポー

係各位の皆様、そして地域の皆様には相変わらぬご指導、又ご協力の程宜しくお願い致します。



U-14 栃木県トレセン中体連選抜 韓国遠征に参加して

県トレセンU-14中体連
監督 都地 裕一

8月19日から8月25日にかけてU-14中体連選抜チーム、17名が韓国遠征に参加しました。初めての海外遠征となる選手も多く、不安と緊張の入り交じるスタートとなりました。

初日は、仁川にある富平東中学校の合宿所でお世話になり、韓国特有の辛い料理に悪戦苦闘する様子がありました。

2日目からいよいよ本格的にサッカーが始まりました。午前中は調整練習を行い、午後には35分×3のゲーム。相手は名門中学の富平東中学校。全国大会優勝の経験のあるチームで、昨年度の韓国遠征では中体連チームが0-5で敗れた相手です。その相手に対し1-1のドロー。体の大きな相手にテクニックを駆使して戦い、互角に渡り合うことができました。3日目も同じ日程で、午前中にトレーニング。相手を分析し守備を重視したトレーニングを行い、午後は富平東中学校と30分×3本の試合を行いました。昨日のゲームが引き分けであったことと韓国人特有の勝ち気な気質もあってか、集中力の違いを感じ取ることができました。結果は3-0で勝利。トレーニングの成果が十分に現れ、高いモチベーションをもって試合に臨むことで、昨日以上に相手を翻弄し、主導権を握りながら戦うことができました。身長は小さいが、非常にテクニカルなサッ

カーのスタイルに、たくさんの賞賛を受け、選手たちの自信につながりました。

4日目はソウル観光。ワールドカップ記念館とワールドカップで使用されたスタジアムを訪れ、韓国サッカーの歴史に触れることができました。午後は明洞観光。韓国ならではの雰囲気を感じることができました。

5日目は、クラブチームとの対戦。20分×5で試合を行いました。1つ学年上のイェヤラムFCには3-1で勝利。2つ学年上のプチョンキョクスには0-4と大敗。フィジカルとスピード、セットプレーに屈する結果となりました。体格差がある中でも、技術が発揮される場面は多々あり、負けはしましたが、得られるものも大きかったように思います。

6日目。いよいよ帰国の日となりました。仁川中心に観光するなかで、選手たちの中に韓国への名残惜しさと敬意の芽生えを見ることができたように思います。ホームステイや合宿所での経験をもとに、選手たちがまとめた韓国遠征プレゼンテーションからは、韓国の人々の心の温かさに触れたことによる感謝の言葉がたくさん並べられていました。選手たちの心身共に大きく成長する姿を目の当たりにし、監督としてこれ以上ない喜びを得ることができました。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて下さった、栃木県サッカー協会と仁川サッカー協会、富平東中学校の皆様、そして韓国遠征を企画・運営していただいたスタッフの皆様から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第4種委員会

◇高瀬利明委員長あいさつ



4種委員会委員長の高瀬です。

日ごろから、県協会関係者様、チーム関係者様そして保護者の皆様には、大変お世話になっております。

さて、2015年から、全日本少年サッカー大会を冬季に開催することが決定いたしました。

それに伴い、各都道府県は、年間スケジュールを見直すこと、及びリーグ戦文化の構築を模索することを余儀なくされました。我々としても、日本協会の意向に賛同し、年間スケジュールの見直し等を行っていきます。全日本大会の予選としてのリーグ戦をどのように開催していくかなど、課題は山積しておりますが、各チーム関係者・保護者の皆様には趣旨をご理解の上、ご協力をいただければと思います。

ところで、栃木県の少年たちのサッカー技術の現状ですが、やや憂えるものを感じております。関東他県と比べても、韓国と比べても、何か物足りなさを感じます。日本代表の本田圭祐も言っているように、「個」の力をどう引き出し、チームとして連動させるか、ここに課題があると思います。我々とチーム関係者・保護者が一体となって、選手のレベルアップを図っていきましょう！

今後とも「プレーヤーズ・ファースト」の精神を忘れず、4種委員会の活動を充実させていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

第37回全日本少年サッカー大会 栃木県大会

6月2・9・16日の3日間、大田原市の美原運動公園陸上競技場などで、全国大会への切符をかけて熱戦が繰り広げられました。

大会前日には「ボールへの集い」としてイベントが行われました。学年別のリフティング大会を行い、観客も大いに盛り上がりました。



<堂々の選手宣誓>



<リフティング大会>



<リフティング大会で活躍し記念品をゲット>

大会で決勝に進出したのは、前年度優勝の栃木SCジュニアと北那須地区の野原グランディオスFCでした。1点を争う好ゲームとなりましたが、後半にサイドからの崩しで一点を奪った栃木SCジュニアが三連覇を飾りました。



<第1日目の様子>



<準優勝の野原グランディオスFC>



<第2日目の様子>



<第3位 JFCファイターズ>



<第3日目の様子>



<第3位 FCみらい>



<優勝の栃木SCジュニア>



第3回北関東U-12サッカー大会

7月20・21日群馬県にて第3回の北関東大会が開催されました。本県からは、ともぞうSC、FC毛野、TEAMリフレSC、小山羽川サッカークラブが参加しました。

その中でともぞうSCが見事優勝しました。FC毛野、TEAMリフレSC、小山羽川サッカークラブも2位パートで健闘しました。



<優勝したともぞうSC>



<第2位パート優勝 TEAMリフレSC>



<大会の様子>

第37回全日本少年サッカー大会

7月28日から8月3日にかけて、静岡県で行われました。本県代表栃木SCジュニアは1次ラウンドを1位で通過しました。しかし、2次ラウンドで3位に輝いた三重県の大山田SSSに得失点差で及ばず決勝トーナメントへの進出はなりませんでした。



<優勝の栃木SCジュニア>

第37回関東少年サッカー大会

8月17・18日、山梨県にて大会が行われました。栃木県からは、野原グランディオスFC、JFCファイターズ、FCみらいの3チームが参加しました。FCみらいは2位パート、野原グランディオスFC、JFCファイターズは3位パートで奮闘しました。

第35回東関東少年サッカー大会

8月25日、本県的那須塩原市青木サッカー場で大会が行われました。本県からは6年生の部に下都賀トレセンと両毛トレセン。5年生の部に北那須トレセン、栃木県トレセン、宇河トレセン、塩南トレセン。4年生の部に上都賀トレセン、芳賀トレセンが参加しました。栃木県勢は残念ながら決勝に進むことはできませんでした。



第1回全国シニア(40歳以上) サッカー大会関東予選会

平成25年6月23日
A会場:熊谷スポーツ文化公園 陸上競技場
B会場:熊谷スポーツ文化公園 東第1多目的広場

【Aブロック】	千葉四十雀 サッカークラブ (千葉)	0	$\begin{pmatrix} 0-0 \\ 0-2 \end{pmatrix}$	第1代表 クマガヤサッカースポーツクラブ(埼玉)
	クマガヤサッカースポーツクラブ (埼玉)	3	$\begin{pmatrix} 0-1 \\ 2-1 \\ \text{延長} \\ 0-0 \\ 1-0 \end{pmatrix}$	
	ラッツオス古河FC (茨城)	3	$\begin{pmatrix} 0-1 \\ 3-3 \end{pmatrix}$	
	横浜シニア (神奈川)	4		
【Bブロック】	渋川シニアサッカークラブ (群馬)	1	$\begin{pmatrix} 1-0 \\ 0-1 \\ \text{PK} \\ 5-4 \end{pmatrix}$	第2代表 渋川シニアサッカークラブ(群馬)
	四十雀クラブ東京 (東京)	1	$\begin{pmatrix} 1-0 \\ 0-0 \end{pmatrix}$	
	矢板クラブ (栃木)	1	$\begin{pmatrix} 0-2 \\ 1-5 \end{pmatrix}$	
	山梨マスターズ (山梨)	7		

第8回関東シニアサッカー選手権大会(Over60)

大昭サッカークラブ 監督 野中 克也

第8回関東シニアサッカー選手権大会(Over60)が、群馬県前橋市県営サッカー場で開催されました。大会日程は8月3日～8月4日、両日とも真夏の炎天下の試合になりました。今年の栃木選抜チームは、60才の新人7人が仲間に入り、今年は大いに期待し参加しました。

予選3試合の結果は、初日の初戦、埼玉代表に1-0で敗れ、2戦目東京代表に2-0で敗れました。ゲームの内容は2試合とも一進一退の好ゲームでしたが、まだまだ決定力不足やショートパスの正確に欠けるものがありました。

2日目第3戦、神奈川代表に1-0で敗れ、順位決定戦で茨城代表と対戦、1点先行するも1点返され、結果1対1の引き分けでした。

総論としては、4試合とも今までに見られなかった、チームワークのパスをつなぐ、所々ロングパスを入れるなど試合内容がレベルアップできました。栃木選抜チームのこれからの試合に大いに期待できることが確信できました。

今年スケジュールは10月25日～29日高知ねりんピック大会に参加、また11月30日～12月1日には全国シニア大会関東予選会が千葉市原市サッカー場で開催予定です。今年は「関東で3位以内」を目標に、これからの練習をレベルアップしてチーム一枚岩になって頑張りますので、応援宜しくお願いします。



第12回全国シニア(50歳以上) 関東予選会成績表

平成25年4月28日 埼玉スタジアム2002公園 第3グラウンド

【Aブロック】	トヨペットクラブ (東京)	2	$\begin{pmatrix} 1-0 \\ 1-0 \end{pmatrix}$	第1代表(全国大会出場) トヨペットクラブ(東京)
	FC船橋50 (千葉)	0		
	山梨マスターズレジェンド (山梨)	0	$\begin{pmatrix} 0-0 \\ 0-0 \\ \text{PK} \\ 3-2 \end{pmatrix}$	
	FC前橋50 (群馬)	0	$\begin{pmatrix} 0-0 \\ 0-0 \\ \text{PK} \\ 3-2 \end{pmatrix}$	
【Bブロック】	ドリーム水戸シニアFC (茨城)	1	$\begin{pmatrix} 0-1 \\ 1-0 \\ \text{PK} \\ 4-3 \end{pmatrix}$	第2代表 ドリーム水戸シニアFC(茨城)
	Azul神奈川FC (神奈川)	4	$\begin{pmatrix} 2-1 \\ 2-0 \end{pmatrix}$	
	NTTシニア (埼玉)	2	$\begin{pmatrix} 0-0 \\ 2-0 \end{pmatrix}$	
	栃木EIKOH (栃木)	0		

第8回関東シニアサッカー選手権大会 0-60試合結果

【A組】

	茨城	山梨	群馬	千葉	勝ち	引分	負け	勝点	得点	失点	得失差	勝ち
茨城 茨城シニア60	●	●	●	●	0	0	3	0	3	10	-7	4
	2-4 前2-0 後0-4	1-2 前1-1 後0-1	0-4 0-1 0-3	0-4 0-1 0-3								
山梨 山梨50シニア	○	●	●	●	1	0	2	3	4	5	-1	3
	4-2 前0-2 後4-0	0-1 0-0 0-1	0-2 0-1 0-1	0-2 0-1 0-1								
群馬 群馬FC60	○	○	●	●	2	0	1	6	3	2	1	2
	2-1 前1-1 後1-0	1-0 0-0 1-0	0-1 0-0 0-1	0-1 0-0 0-1								
千葉 ACちば	○	○	○	○	3	0	0	9	7	0	7	1
	4-0 前1-0 後3-0	2-0 1-0 1-0	1-0 0-0 1-0	1-0 0-0 1-0								

【B組】

	埼玉	栃木	神奈川	東京	勝ち	引分	負け	勝点	得点	失点	得失差	勝ち
埼玉 埼玉シニア60	○	○	●	●	2	0	1	6	3	2	1	2
	1-0 前1-0 後0-0	2-1 1-1 1-0	0-1 0-0 0-1	0-1 0-0 0-1								
栃木 栃木大昭 サッカークラブ	●	○	○	●	0	0	3	0	0	5	-5	4
	0-1 前0-1 後0-0	0-1 0-0 0-1	0-3 0-1 0-2	0-3 0-1 0-2								
神奈川 茅ヶ崎FC えぼし	●	○	○	●	1	0	2	3	3	5	-2	3
	1-2 前1-1 後0-1	1-0 0-0 1-0	1-3 0-1 1-2	1-3 0-1 1-2								
東京 四十雀クラブ 東京60	○	○	○	○	3	0	0	9	7	1	6	1
	1-0 前0-0 後1-0	3-0 1-0 2-0	3-1 1-0 2-1	3-1 1-0 2-1								

※勝点 勝ち 3点 引分 1点 負け 0点
 日程 : 平成25年8月3日(土)・4日(日)
 会場 : ①群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場
 ②補助陸上競技場 (群馬県前橋市敷島町)

【順位決定戦】

A組1位 vs B組1位

千葉	0 - 0	東京
ACちば	前0-0	四十雀クラブ東京60
●	後0-0	○
	PK 2-4	

A組2位 vs B組2位

群馬	1 - 0	埼玉
群馬FC60	前1-0	埼玉シニア60
○	後0-0	●

A組3位 vs B組3位

山梨	2 - 0	神奈川
山梨50シニア	前1-0	茅ヶ崎FCえぼし
○	後1-0	●

A組4位 vs B組4位

茨城	1 - 1	栃木
茨城シニア60	前1-1	栃木大昭サッカークラブ
△	後0-0	△

順位	県名	チーム名
優勝	東京	四十雀クラブ東京60
準優勝	千葉	ACちば
3位	群馬	群馬FC60
4位	埼玉	埼玉シニア60
5位	山梨	山梨50シニア
6位	神奈川	茅ヶ崎FCえぼし
7位	茨城 栃木	茨城シニア60 栃木大昭サッカークラブ
8位	—	—

シニア委員会

委員長 福田 治

栃木県シニアサッカー（40歳以上）は、県シニアサッカー大会（4月）、県シニアリーグ（5月～翌年の2月頃）、県シニアサッカー選手権大会（9月、10月）を年間を通して行っています。また、シニアフレンドリーマッチ（35歳以上）の大会（1種の選手等を対象）に12月行っています。

現在は、県内にOver40が6チーム、Over50が8チーム、Over60が1チーム登録しています。登録していないチームでOver40のチームが8チームありリーグ戦等で戦っています。県リーグ戦の優勝チームは各年代の全国予選の関東大会に出場、選手権大会の優勝チームは各年代の関東選手権大会出場資格が与えられます。

関東大会は8都県を持ち回りで行っています。今年度は、第4回関東シニアサッカー選手権大会（Over50）が11月23、24日に開催されます。

また来年度は、第27回全国健康福祉祭栃木大会ねんりんピック栃木2014が10月4日～7日までサッカーは宇都宮市、壬生町で開催されます。全国から60歳以上のチーム約60チームの参加の予定となっていますので、協力等をお願いします。

第27回全国健康福祉祭とちぎ大会

ねんりんピック栃木 2014

咲かせよう！ 長寿の花を 栃木路で

平成26年10月4日(土)～7日(火)

指導者の関わりが子どもを育てる ～D級リフレッシュ研修会から～

キッズ委員会委員長 金井 理

昨年度の2月、栃木県少年サッカー連盟と県キッズ委員会の共催によるD級コーチリフレッシュ研修会を行いました。県内各地区から約60名の指導者が参加しました。

今回で2年目でしたが、今年度も芳賀地区のキッズアカデミーの場をお借りして行うことができました。芳賀地区理事の原さんや芳賀地区キッズ委員会の袖山さんには大変お世話になりました。



(研修会に参加する指導者の方々)

一昨年度は、講師に元清水エスパルス監督のゼムノビッチ氏を講師に招き指導実践や講義を行いました。ゼムノビッチさんの分かりやすい指導は、大変勉強になりました。

今回は、キッズ委員会としても、キッズ年代の指導の大切さや、この年代の子どもたちへの関わり方などを実際に体験してもらうことが今度の指導に役立つのではないかと考え参加型の研修会を計画しました。

しかしながら、これはD級リフレッシュ研修会の最終のもので、これを受講しないと来年度ベンチに入れない、といういわば駆け込み寺的な要素もありました。また、サッカーを経験している方、していない方、指導者としての経験がまだ浅い方、逆に何十年も関わっている方、高学年しか見たことがない方、低学年しか見ていない方、自信のある方、ない方・・・などさまざまな指導者が集まった中で行うことで受講者のモチベーションに差が出るのではないかと若干の不安もありました。事実、研修内容の説明を聞いている指導者の方々の表情は非常に硬かったです。

内容的には、アカデミーに参加しているU-7～U-9の子ども達を10人程度のチームに分け、ミニゲーム大会のコーチを務めるというものです。指

導者同士二人一組になりいよいよスタートです。指導者同士も初めて出会う方がほとんどだったと思います。

テーマを「子ども達のやる気や気付きを促すためのよりよい言葉かけをしよう」と設定しました。

担当コーチとしての役割として

- ① 自己紹介をしよう（名前で呼び合おう）
 - ② チーム名を決めよう
 - ③ キャプテンを決めよう
 - ④ ゲーム前の円陣を組もう
 - ⑤ チームの目標を決めよう
- をお願いしました。



(子ども達との出会い)

この時を、指導者がどう子どもと関わるかが成功するかどうかのカギといっても過言ではありません。指導者の皆さんは、ここで子ども達を引きつけるためいろいろ工夫されたと思います。普段より、笑顔で、優しく、ユーモアを交えて丁寧な言葉で・・・というように子ども達に接したのではないのでしょうか。

次は、ウォーミングアップです。10分という時間内にそれぞれの指導者がチームごとに行いました。



(子ども達との出会い)

体操しているチームや、ランニング、パス、ドリブルなど短い時間の中でいろいろなアップがありました。普段の練習の中で行われているものと思

いますが、「鬼ごっこ系」のアップがあまり見られませんでした。この年代の子ども達にとって大切な動きや判断の要素が「鬼ごっこ」の中には多くあります。このことを指導者が理解しているかどうか大切なことだと思います。

「鬼ごっこ」には、知らず知らずのうちにステップワークが身についたり、相手の逆を取る動きがあったり、鬼から逃げるために常に顔をあげて周りを見る、見て判断して逃げる・・・など今後サッカーをやる上で大切な動きや判断の要素がたくさんあります。また、ボール有り、なしなどバリエーションも豊富です。鬼ごっこをするだけでも効果があるとは思いますが、指導者が効果を理解していれば、コーチングの言葉も変わり子ども達に身につけさせる事が出来たり判断させることができたりすると思います。ぜひ、自チームでも実践してほしいと思います。

さて、いよいよゲーム大会です。ここでの研修のテーマとして

- ① 子ども達へのコーチングは禁止。
- ② いいところを見つけてたくさん褒める。
- ③ 子ども達に意識させたり考えさせたりできるような声掛けをする。
- ④ 自由な判断ができるような雰囲気をつくる。

をお願いしました。
 ここでの取り組みが、研修に参加された指導者の皆さんがどうかかわるのか、不安でもあり楽しみでもありました。始まると、不安は一気になりました。指導者の皆さんは、初めて出会った子ども達に笑顔で話しかけ、子ども達が安心して楽しくサッカーができる環境を作っていました。



(ゴールを子どもとともに喜び合う)

ピッチのあちこちから「ナイスプレー」「いいねー」「ナイスシュート」など子ども達を褒める声やうまくいかなくても次に頑張れるよう「ドンマイドンマイ」などの声が飛び交っていました。中には、ゴールした瞬間一緒に飛び上り子ども達と抱き合っている指導者もいました。ゲーム終了後は、コーチも子ども達と一緒に相手チームと握

手。相手をリスペクトすることをコーチ自ら率先して行っていました。子ども達は、コーチのそういう姿を見て育つのだと思います。



(子ども達と笑顔で話す指導者の方々)

ゲームが終わると、コーチを中心に丸くなって反省会。コーチも一人ひとりに声をかけ勝っても負けても次のゲームは頑張るぞ、という気持ちにさせていました。その時の子ども達の笑顔は言うまでもありません。私は、このような指導者のかかわりが子ども達がサッカーを好きになり判断や発想を育てるような気がしてなりません。

どのチームの子ども達も、コーチの笑顔や優しくわかりやすい言葉かけで短時間で信頼し自分が思ったプレーを出せたのではないのでしょうか。子どもたち同様、コーチの皆さんの笑顔も印象的でした。



(自由に意見が言える雰囲気作り)

皆さんのチームに指導者の顔色をうかがい、怒られることを気にしながらプレーしている子どもはいませんか。子ども達を威圧して、自分の思い通りのサッカーをやらせようとしている指導者はいませんか。もし、思うように子ども伸びず改善したいと思うことがあったら、もう一度戻って基礎的な部分をやり直したり子ども達にプレーについて考える時間を与えてみたりしてはどうでしょうか。今の時期の失敗経験は、学ぶことの裏返しで

あり必ず今後の糧となると思います。指導者は、我慢し待つことも大切です。



(相手に対するリスペクト)

サッカーは、選手自身が判断して、決定して実行できるから楽しいスポーツなのだと思います。その部分を指導者が奪ってしまったら・・・と思うと残念ですよね。今回参加された指導者の皆さんにはそんな指導をしている方はいませんでした。皆、子ども達のプレーを尊重し、褒め、失敗しても次頑張れるように声をかけている指導をされていて大変すばらしいものでした。

子ども達は、褒められると嬉しい。コーチや親に褒めてほしいと思うからもっとうまくなりたいと思う、だから練習する・・・そんな自分から進んでサッカーに取り組めるような子どもを育てたいですね。



(全員でハイタッチ)

研修終了後子ども達と別れるハイタッチの場面では、指導者の方々はみな笑顔でした。始まる前の硬い表情からは想像もできないものでした。もしかしたら、若干無理をしてテンションをあげたり、言いたいことを我慢したりした方もいたかもしれません。

しかし、そこで自分の殻を破ったり言葉を選んだりして子ども達に接したことで、初めて出会った子ども達の気持ちをつかみ笑顔や自由な発想でのプレーを引き出したのではないのでしょうか。そ

のプレーを引き出したのではないのでしょうか。そして、この姿勢こそが指導者として大切なことではないかと思えます。

今回、このような研修会に参加していただいた指導者の皆さんも自チームでは、こんな表情や接し方ができない状況にあることも多々あると思えます。

しかし、子ども達にとってよりよい指導者はどちらでしょう。私たち指導者は、指導実践での技術向上はもちろんですがそれ以外の部分でも子ども達が安心してサッカーができる環境を作る責任があります。「指導者(大人)が変われば子供が変わる」とよく言われます。

サッカーが大好きな子ども達の前に立つときに、その情熱にこちらの指導が追いつかないことがないように、私たち指導者は常に新しい情報に敏感になりより良い指導ができるように心がけたいものです。キッズへの取り組みもその一つだと思います。



(指導者同士のコミュニケーション)

私も含めて、子ども達に、「あのコーチに教わりたい」と言ってもらえるようになりたいですね。今回の研修が、指導者としての自分自身を見直すきっかけになってくれたら幸いです。

「栃木のサッカーをキッズから変える」つもりでキッズ委員会も頑張っていきたいと思えます。また、このような研修会を企画したいと思えますので是非参加してください。

全日本大学フットサル関東大会 マジカオ県勢初の4強

大学界のフットサルナンバー1を決める「第9回全日本大学フットサル大会」の関東大会が7月20日、埼玉県春日部市の庄和体育館で行われ、関東8都県の代表が2つの全国大会出場枠を懸け熱戦を展開しました。

本県では第5回大会から県代表を関東大会に派

遣するようになり、今回は県予選で国際医療福祉大FC. majikaoが宇都宮大AdelanteFCを下し2年連続3回目の関東大会へ駒を進めました。

関東大会では1回戦で東京経済大Burja（東京第2）を5-2で下し、県勢として初めて初戦突破を果たしました。準決勝では、前回、今回と全国大会2連覇を飾った順天堂大フットサル部GAZIL（千葉）と対戦し惜しくも2-4で敗れましたが、本県代表として堂々の戦いをみせてくれました。国際医療福祉大FC. majikaoの秋元郷志主将に大会を振り返ってもらいました。

■1回戦／国際医療福祉大FC. majikao 5-2 東京経済大Burja（東京第2） ■準決勝／国際医療福祉大FC. majikao 2-4 順天堂大フットサル部GAZIL（千葉）

準決勝の（全国優勝をした）順天堂大戦は、個人の能力は相手の方が上だったが、走れたことと気後れしなかったことで互角の内容まで持ち込めた。負けはしたが自信につながる試合はできた。

今大会に出場した主力メンバーは現在3年生で、あと1年チームに残る。練習を重ねてレギュラーと控え選手の実力差をなくし、フットサルの理解度を深め、来年こそは全国大会出場を果たしたい。



▲国際医療福祉大FC. majikao

栃木県フットサルリーグが終了 峰FCがアベックV

男子の第11回栃木県フットサルリーグと女子の第8回栃木県女子フットサルリーグが9月までに全日程を終了。男子1部ではInfantil／峰FCが、女子ではAmaralo／峰FCが頂点に立ち、峰FCとしてアベック優勝を飾りました。

■男子1部リーグ ①Infantil／峰FC ②赤堀③FC. majikao④ラズス⑤どんぐりFC⑥ユズハ⑦フォルテューナ⑧フロンテラ

■男子2部リーグ ①AS栃木②PS. F. E③アダムス④アデランテFC⑤ヴェンダヴァル⑥アウヴォラダ日光⑦レジェンダ三栄⑧リボラ⑨エレッタ⑩ブラジニア

■女子リーグ ①Amaralo／峰FC②ヴェルフェたかはら那須フェミニノ③宇都宮チェルトFC④足利・両毛ローザ⑤宇都宮市泉が丘中学校⑥ブラジニア

全日本ユース（U-15）フットサル フットサル委員会に主管移行

これまで本協会クラブユース連盟主管で行われてきた男子中学世代の「全日本ユース（U-15）フットサル栃木県大会」が、本年度から本協会フットサル委員会に主管が移行されます。

これまでU-15のフットサル大会は、男子がクラブユース連盟、女子がフットサル委員会という分離開催でしたが、今後は男女ともフットサル連盟主管で大会が運営されていくこととなります。今年で男子は19回、女子は4回目を迎え、10月20日に真岡市スポーツ交流館で初めて男女同時で県予選が開催されます。

中学世代の全日本レベルのフットサル大会は同大会のみ。フットサル委員会としても、10代のフットサル人口拡大のため出場チームを増やし盛り上げていきたいと思えます。引き続きよろしく願います。

第25回関東レディースサッカー大会 本県勢3チームが奮闘

30歳以上の女性プレーヤーがメインとなる「第25回関東レディースサッカー大会兼全国レディース大会関東地区予選」が8月24、25日、栃木県総合運動公園サッカー場で行われました。

本県からは第1代表としてFCクィーンズ、第2代表としてブランカFC、第3代表として真岡パープルレディースが出場、各都県の代表と熱戦を繰り広げました。しかし3チームとも健闘及ばず惜しくも初戦は突破できませんでした。「全国大会出場」は次回大会以降に持ち越しとなりました。3チームの主将に大会を振り返ってもらいました。

■1回戦／FCクィーンズ 1-1（PK 2-3）群馬FCマミーズ境（群馬）

津田千明主将の話 「早いうちに先制点を挙げられたのはよかったが守り切れなかった。栃木県1位ということでプレーに気負いがあったのかもしれない。なかなか練習量を増やすということもできないが、『関東1勝』を果たせるようこれからも頑張っていきたい」



▲FCクィーンズの選手たち

■1回戦/FCクィーンズ1-1 (PK2-3) 群馬FCマミーズ境 (群馬)

倉田有子主将の話 「シュートチャンスを生かせなかったことが大きく響いてしまった。ただ選手たちはこの関東大会を楽しんでプレーできたと思う。初心者が多いチームだが、経験者チームに追い付けるよう今後も練習に励んでいきたい」



▲ブランカFCの選手たち

■1回戦/真岡パープルレディース0-4FC, VI DA Feliz (千葉)

島恵美子主将の話 「試合の波に乗る前に前半で3失点してしまったことが悔やまれる。相手が強豪



▲真岡パープルレディースの選手たち

ということで大量失点も覚悟したが、選手たちが守備で集中できていたことはよかった。来年以降は県予選突破が一つの目標になる」

《メモ》かつての「ママさんサッカー大会」。競技人口の広がりとともに「レディースサッカー大会」に改称された。原則30歳以上の女性で組織されたチームが出場。アンダーエイジ枠として、18~29歳の選手2人の出場が認められている。

第18回全日本女子ユース (U-15) 選手権大会
栃木SCが全国ベスト8

中学生世代の女子プレーヤーが日本一を争う「第18回全日本女子ユース (U-15) サッカー選手権大会」が7月28日から8月3日まで、大阪府堺市のJ-GREEN堺で行われました。本県からは栃木SCレディースが、単独チームの大会となつてからは県勢として初めて全国大会に駒を進めました。関東大会を2位で突破すると、その勢いは全国大会でも止まらずベスト8に進出する健闘をみせてくれました。チームを率いた田代久美子監督に大会を振り返ってもらいました。

■1回戦/栃木SCレディース5-0備後府中TAM-S (広島) ■2回戦/栃木SCレディース2-0FCビクトリーズ (兵庫) ■準々決勝/栃木SCレディース0-2JFAアカデミー福島 (福島)

大会期間中のミーティングで「試合に出ている選手たちは、雑用をこなしてくれている控えの選手や応援してくれている周囲の方のことを忘れずに戦おう」と確認し、そこでチームとしてしっかりまとまれた。1、2回戦は相手に合わせてしまう場面もあったが、選手たちは自分たちのボールをつなぐサッカーを忘れずにプレーできた。準々決勝は個人技で上回る相手に負けてはしまつたが、運動量では相手を上回り、栃木SCらしいボールをつなぐ戦いはできたと思う。



▲栃木SCレディースの選手たち

第37回全日本少年サッカー大会に参加して

若井田 駿（宇都宮北高校3年）

7月27日から8月3日までの八日間、静岡県御殿場市時之栖で第37回全日本少年サッカー大会に参加しました。本大会では主審3試合、副審5試合、第4の審判1試合の割り当てをいただきました。印象に残っているのは、準々決勝（ソレッソ熊本ーヴァンフォーレ甲府）の主審を経験できたことです。その反面、準決勝や決勝の審判団に割り当てられなかったのは私の実力不足だったとも思っています。

二日目の講義で、グリーンカードをなぜ提示するのか、またその意味を学びました。未来のJリーガーとなる選手の身体面・社会面・心理面などの向上を目的に、選手のフェアプレーなどに対してグリーンカードを提示します。私は本大会の前では、あまり深くまでグリーンカードについて考えたことがなく、良いことをした選手に対して示すものだと思っていました。講義を受けて、大筋は合っていましたが、示す例が細かく分かれていて、改めて学ぶことができました。

また、印象的だったのはイングランド協会からいらっしゃった審判インストラクターのポール・テイラー氏の講義です。「どのようにレフェリーとして考えるか」というテーマで講義は進みました。常にチャレンジ精神でいること、プレッシャーを感じてもそれを活用すること、などといった審判員としての精神的・技術的な考え方を学びました。試合で何を目標にしてそれをどう達成するのか、試合での自分をどう評価し、自分の強みと弱みをどのように考えるのか。これらのことは今年、大学受験を控える私の毎日の生活に共通していると思います。審判員としてだけでなく、今の私の状況すべてに必要なことだと思い、大変印象に残りました。

今回の研修を終えて、私は全国の審判仲間やインストラクターの方々から「成長したね」と言われるようになりました。しかし、レフェリングのためのレフェリングではなく、「選手のためのレフェリング」と考えれば、自然とオープンマインドになり、選手に優しく、すなわち気遣いができるようになるのではないかと思います。審判員の立場から試合を楽しむことができれば、チーム・選手・監督・スタッフへの理解につながり、全体を通してフェアな試合になる。私はこれを目標

に審判活動に励みたいです。各個人の目標は違いますが、「高みを目指す」という目標は共通です。各都道府県に同じ志を持つ仲間がいることは大きな励みです。将来のJリーグの舞台に審判員として選手と同じピッチに立てることを大いに楽しみにしています。

最後になりますが、第37回全日本少年サッカー大会に参加できたこと、また栃木県サッカー協会の方々から選考していただいたことに大変感謝します。本当にありがとうございました。もちろん、高校卒業後も審判活動を続けていきます。将来の一級審判員、国際審判員を目標に毎日を過ごしていきたいと思います。これからもご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



第68回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技開催

第68回東京国体への出場権をかけ、今年の8月17日（土）、18日（日）に神奈川県藤沢市秋葉台公園球技場、相模原麻溝公園競技場、日産ワールド小机で関東ブロック大会が開催され、栃木県チームも本大会出場を目指し、激闘を繰り広げてきた。

少年男子

関東マッチデーによる予備予選の結果で栃木県は7チーム中6位という順位に終わった（東京を除くため）。関東ブロックを突破するためには、3日連続で勝ち続けるという3連勝が条件であった。初戦の群馬戦に臨み、前半を0-0で折り返した。後半に入り、森本ヒマン（矢板中央高1年）のゴールで先制点を挙げる。その後CKによって同点に追いつかれるが、その数分後、茂呂圭輔（矢板中央校1年）のゴールで再びリードできた。しかし、その後は自分たちのミスやアンラッキーもあり逆転されてしまった。試合はそのまま終了し、少年の関東ブロック予選突破の夢は初戦で儚く散った。

女子

初戦の埼玉戦を0-4で敗れ、本戦への夢は叶わなかったが、スコアほどの差は感じられなかった。特に前半は栃木にもチャンスはあり、十分に戦うことができていた。しかし、結果として0-4となった一番の理由は、シュートの意識、勝利への執念であった。栃木の選手はバイタルを攻略しようとして、崩しを意識した結果、シュートチャンスでシュートの選択ができなかった。それに対し埼玉はバイタルの外からもシュートの意識を常に持ち、ゲームにおけるプライオリティを理解できていた。崩しにこだわった点を評価しつつ、シュートへの意識を来年度の課題にしていきたい。

成年男子

群馬戦では、前半13分にフリーキックから先制したことによってゲームプランの1つである守備ブロックから、カウンターでの得点が決まりやす

いゲーム展開となり選手、ベンチとも共通意識のもとゲームの流れを読んで加点し勝利する事ができた。

千葉戦では、前日の守備の良いイメージがありGKを中心に素晴らし守備ができた。後半に入り、ゲームプランである自分たちで主導権を握って得点を狙う形が上手く出せ、2点を取ることができ、勝利し全国大会出場を決めた。

全国大会では昨年度の悔しい気持ちを胸に関東、栃木の代表として気持ちの入った熱いゲームをしていきたい。



代表決定戦 栃木(白) VS 千葉(黄)

各種別のスタッフ一覧

成年男子

監督／広瀬多広、コーチ／高瀬亮、コーチ／横浜誠、トレーナー／井野口誠之、マネージャー／小林崇志、主務／鈴木篤

少年女子

監督／鈴木秀明、コーチ／藤田美好、コーチ／鈴木清司、GKコーチ／田中睦子

少年男子

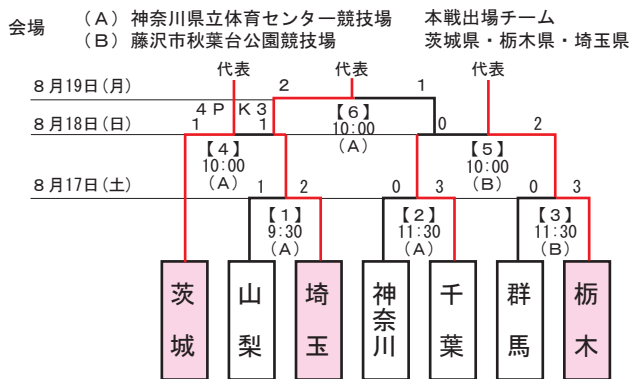
監督／御子貝和亮、コーチ／落合彰、コーチ／金子文三、コーチ／細井暁

第68回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技 組み合わせ

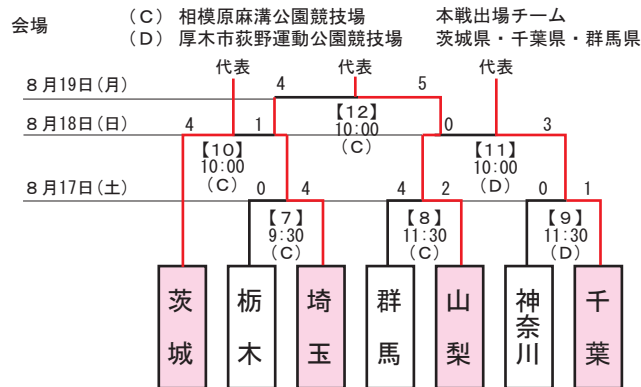
技術委員会からの報告

記載:技術委員長 川上栄二

成年男子



女子



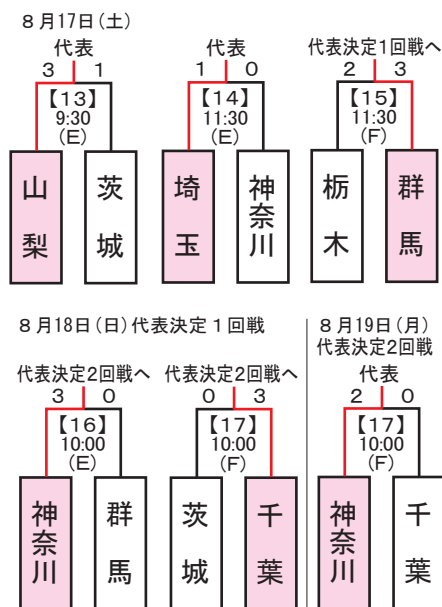
少年男子

会場 (E) 神奈川県立保土ヶ谷公園サッカー場 本戦出場チーム 山梨県・埼玉県・神奈川県
(F) 日産フィールド小机

U-16リーグ結果

Aブロック	1位	茨城	2位	山梨	3位	神奈川	4位	栃木
Bブロック	1位	埼玉	2位	東京	3位	千葉	4位	群馬

※上記から東京都を除いて、1~7位の結果順位で組み合わせる



※【】はマッチナンバー

一昨年度末、技術委員会では以下の目標を掲げた。そして現在目標達成のため動き出している。今回は、技術委員会が主体となって行っている事業について説明していきたい。

技術委員会の掲げる目標達成のための1st Action (2012-2017)

- I 「世界に通用する選手」を輩出する
- II 県を代表するチームすべてが、常に関東Aクラスで、全国ベスト8以上に
- III サッカー人口2%計画(4万人:現在の約2倍)

本県の実情を考えるとI、IIについては選手に対する育成指導だけではなく、彼らを変えることのできる指導者への強いアプローチをしなければならぬことを前置きしておく。

Iについては臼井紀仁ユースダイレクターと高井剛トレセンチーフが中心となり各種事業を展開している。通常のトレセン活動は勿論、集中開催の中央トレセン、NTC伝達講習会、トレセンコーチ研修会(トレセンコーチサミットを含む)など、常にオープンマインドで実施している。昨年度来から栃木SCの関わりも非常に強く多く、山口隆文氏に続き上野優作氏も精力的に県内育成及び指導者養成に関わっている。技術委員会としては、地区の醸成(実力アップ)と指導者養成が県内サッカーを飛躍的に変えていくと確信している。

また、海外遠征実行委員会を開催し、仁川サッカー交流や3年に1度の大型海外遠征の準備を行っている。県協会技術委員を中心に仁川(韓国)サッカー協会との交流も3年目に入り、大学選抜や中学生を中心に韓国遠征を実施している。また育成年代の交流は意義が深いため、中学生に関しては韓国チームの受入も実施してきた。さらに、落合彰海外遠征実行副委員長を中心に次年度ブラジルキャンプを計画している。U-13~U-15の選抜選手、指導者を中心に参加希望者の募集をこの秋から行う予定である。

IIについては福田芳男強化部長を中心に目標達成にむけ多角的に取り組んでいる。国体強化はもとより代表チームに対してどのようにサポートを

していくか、また、県内外のサッカーの実情についてゲーム分析を行い、技術委員会を始め各種会議の研修等で情報の共有ができればと考えている。今後、県内トップ指導者を集めてコーチフォーラムを開催し、トップ指導者が抱える各チームの問題等を共有するような企画も準備している。

Ⅲについては大牧稔指導者養成部長及び金井理キッズ委員長を中心に各種事業を展開している。「サッカーを通じて子どもたちの成長に寄与できる」人材育成を主眼に、また指導者個々のレベルアップのために指導者養成講座を開催している。また、キッズ年代からの普及ということで、各地域でキッズエリートやキッズフェスティバルを開催し、昨年度については延べ2万人以上の参加者実績を上げている。高校生や中学生が、小学生のサッカー教室をサポートし年代を超えた交流を実践していることは、双方向の有意義な効果を得ている。今後、グラスルーツフェスティバルや地区ごとの「女の子のためのサッカー教室」など新たな企画も準備している。

最後に、県内サッカー環境の問題である。ハード面が関東の中では整備されていないのは周知の通りだ。ここで問題視したいサッカー環境はソフト面である。つまり、各チーム、各地区でサッカーに関わる大人の問題なのである。子どもがサッカー環境を変えることはできない。だからこそ、私たち大人が「子どもが選べる」サッカー環境を整備していくことが急務だと考える。また、目先の勝敗のみ拘りすぎて子どもの成長を度外視している指導もあると聞き及んでいる。良きサッカー環境を栃木に。心より願うことである。



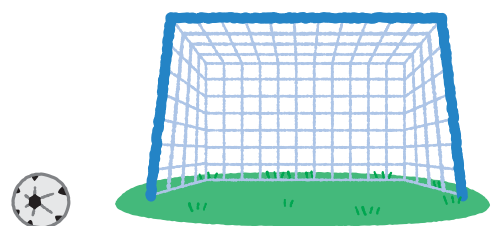
トップ指導者育成事業

本県指導者の資質の向上と競技者のレベルアップを図るため、7月6日7日の2日間でトップ指導者招聘事業を実施した。内容は、6日が「チームマネジメント講習会」県内トップチームである栃木SCユースと真岡高等学校の公式戦におけるチームマネジメントを参加者へ公開し、7日には「MTM講習会」小学生年代の県内地区トレセンの指導者を対象に、ゲームにおける課題の抽出及び指導実践を行い、トレーニングの重要性を伝達した。いずれも講師に栃木SCユース監督の上野優作氏を招き行った。6日の試合では栃木SCの1週間のトレーニングをゲームに反映させることが狙いであったが、矢板中央の守備ブロックを崩せず1-2で敗戦。しかし、このゲームで出た課題を次のトレーニングテーマにし、MTMを積み重ねることが目の前のゲームを勝つことと同じくらい重要であり、また、指導者がしっかりとした色（コンセプト）を出すことも大切である。（上野氏より）

2日目は、4種の指導者・選手が一堂に会し、実施できたのはとても意義深かった。次年度は4種のコーチが指導実践し、ディスカッションできるようなものにしていきたい。強豪揃いの関東で勝ち抜くために4種を含めた栃木県全体の指導者における質を高めることが大切だと考える。



講習会の様子 右：上野氏



奥澤 直人
 相樂 亨
 FC西那須野21アストロ 保護者会
 川村 透久
 ウチノ税理士法人
 鹿沼フットボールクラブOB会
 北山 亮
 檜山 達夫
 FCグランディール宇都宮
 宇都宮北高サッカー部 OB会
 ユー福祉タクシー
 小池 一規
 (有)スポーツショップ ヤマトヤ
 大内中学校サッカー部保護者会
 宇都宮イーストFC
 円印刷株式会社
 星野みい子

FC西那須野21槻沢
 O M F C
 石崎 洋子
 宇都宮大学サッカー部OB会
 栃木県社会人サッカー連盟審判委員会
 栃木信用金庫
 シノザキスポーツ
 (株)竹石ビル
 滝の原サッカーOB会
 佐野日本大学高校サッカー部保護者会
 野木SSS
 今市第三カルナヴァル
 泉フットボールクラブ宇都宮
 安達 賢二
 東那須野FCフェニックス
 揚茜クラブ
 栃木県立小山西高等学校サッカー部

賛助会員募集のお願い

本協会は地域スポーツ文化の向上と県民の健康増進を目標に、活気にあふれ、夢の持てる栃木県を作るため、サッカーを通して少しでも貢献したいと願い活動しております。

つきましては、年額1万円以上(1口1万円)の賛助をしてくださる個人・団体あるいは法人を募集しております。



賛助会員のいろいろな特典

- 会員証の発行 ● 広告掲載 ● 広報誌送付
- カレンダーの割引 ● 県サッカー協会主催大会の無料観戦
- 天皇杯(本県主催)の入場券割引 ● 日本代表グッズ等のプレゼント抽選
- ヤマトヤ・あおきスポーツ・奈良スポーツでミズノサッカー製品20%OFF

お問合せは公益社団法人栃木県サッカー協会事務局(TEL:028-684-6900)まで

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

- | | |
|---------|--------------------------|
| ■ 発行 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 |
| ■ 編集 | 公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会 |
| ■ 発行責任者 | 石崎忠利、村上富士夫 |
| ■ 印刷所 | 円印刷株式会社 |